

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年3月26日

介護施設スタッフのコロナ検査を徹底すると入居者の死亡率が減った

【松崎雑感】

ワクチン接種が始まる前では、スタッフの感染数が少ないほど、入居者の感染、死亡数も少なかったが、ワクチンが行き渡ると、スタッフの感染の有無と入居者の死亡率に差が見られなかったという、ワクチン接種のパワーを証明した調査です。ただし、スタッフの感染が少ないほど入居者の感染数は少なかったという事です。感染が少ないと、ロングコロナリスクも少ないわけで、それはそれで大きなベネフィットがあります。

介護施設スタッフのコロナ検査を徹底すると入居者の死亡率が減った

McGarry BE, Gandhi AD, Barnett ML. Covid-19 Surveillance Testing and Resident Outcomes in Nursing Homes. *N Engl J Med.* 2023;388(12):1101-1110. doi:10.1056/NEJMoa2210063

背景

COVID-19パンデミック中の介護施設職員のサーベイランス検査が入居者の予後にどのように影響したかは明らかになっていない。

方法

2020～22年のデータを基に後顧的コホート調査を行った。ワクチン接種開始前、オミクロン株流行前、オミクロン株流行中の3期に分けて解析。施設のアウトブレイク（2週間感染者が発生しなかった施設における新たな感染者発生と定義）における、介護施設スタッフ13,424名のCOVID-19検査の頻度と、対応する施設入居者の感染率、死亡率との関連を解析。COVID-19検査実施量の上位10%施設（高検査施設）と下位10%施設間（低検査施設）の入居者の感染死亡率を比較した。

結果

観察期間中、高検査施設で100アウトブレイクあたり519.7名、低検査施設で591.2名の感染者が発生した(発生数の差71.5名:有意)。死亡者は高検査施設で42.7名、低検査施設で49.8名(死亡数の差7.1名:有意)。

一方、ワクチン接種前の時期では、100アウトブレイクあたりの感染者が、高検査施設で759.9名、低検査施設で1060.2名(発生数の差300.3名:有意)、死亡者が、高検査施設で125.2名、低検査施設で166.8名(死亡数の差41.6名:有意)だった。

ワクチン接種が進んだオミクロン株流行前では、両施設の間に感染者と死亡者の有意な差は見られなかった。

オミクロン株流行中の時期では、高検査施設で有意に感染者が減少したが、死亡者の差は見られなかった。

結論

介護施設の職員にCOVID-19検査を多く行うほど、入居高齢者の感染と死亡が減少していた。とりわけワクチン接種前の時期に著明だった。